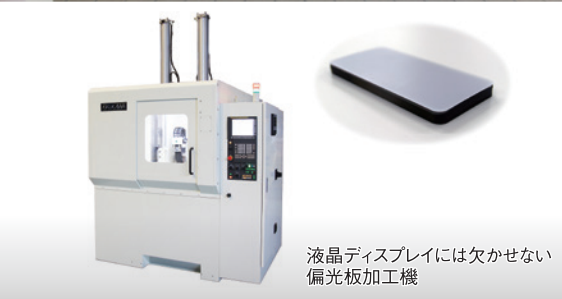


「切る・削る・磨く」技術で貴重な森林資源の永続的な活用を

# キクカワエンタープライズ株式会社



【第58回御遷宮奉祝神都博覧会】(1930年4月)に出品された  
【第2型自動送材車付帯鋸機】の1/4縮尺模型



液晶ディスプレイには欠かせない  
偏光板加工機



本社工場外観

日本初の製材・木工機械メーカーとして誕生以来、常に業界を牽引してきたキクカワエンタープライズ株式会社。「人と自然にやさしい技術」をテーマに時代のニーズに合わせた製品作りに取り組んでいる。

## 製材・木工機械メーカーの パイオニア

キクカワエンタープライズ株式会社は、「切る・削る・磨く」技術に特化した産業機械を、設計からメンテナンスに至るまで一貫して行う国内屈指の製材・木工機械メーカーである。1897年に合名会社菊川鉄工所として創業、国産初となる製材機や



代表取締役社長 菊川 厚氏

### 企業概要

所在地	三重県伊勢市朝熊町3477-36 TEL:0596-21-1011 FAX:0596-21-2135
設立	1897年(明治30年)
資本金	6億6,000万円(東京・名古屋証券取引所第二部上場)
従業員数	227名(2018年5月8日現在)
事業内容	製材機械・木工機械、工作機械の設計・製造・販売・メンテナンス
URL	<a href="http://www.kikukawa.co.jp/">http://www.kikukawa.co.jp/</a>

木工機械の製造に成功した。1964年には、大阪(現・東京)・名古屋両証券取引市場に株式上場を果たした。

### 「伊勢新工場」を建設

2012年、東日本大震災の惨禍に学び、地震や台風など大規模自然災害による事業継続リスクの軽減を図ると同時に大型機械製造のインフラの充実や優



事務部門がワンフロアに集約された事務所



秀な人材を確保できる魅力的な生産拠点とするため、県営サンアリーナ（伊勢市朝熊町）近くの高台にある工業団地へ工場を増設、2016年には本社機能を移転した。

新たな事務所では、営業・開発・製造の事務部門をワンフロアに集約し、相手の顔が見えるようにデスクには仕切りを設けないなどレイアウトを工夫している。これにより、従業員間のコミュニケーションの向上や顧客満足度の高いスピーディな対応が可能となった。また、稼働中の機械や管電線といった基本資材や鋳物木型の製作から機械を作りこんでゆく自前の技術を磨く必要があった。この精神が現代のIT時代においても、ものづくりの根幹をなす部分として受け継がれている」と社長は振り返る。

現代のように動力源や各種資材・電気部品が簡単に入手できる時代ではなかった。「鉄板・鉄管電線といった基本資材や鋳物木型の製作から機械を作りこんでゆく自前の技術を磨く必要があった。この精神が現代のIT時代においても、ものづくりの根幹をなす部分として受け継がれている」と社長は振り返る。

### Safety First

「経営理念はビジネス・パーソンとしてあるべき普通の姿であるが、特色を出しづらい。社内に浸透させるべきは、その年毎の時代の変化を行動に落とし込む全社方針の徹底である」と社長は力説する。

とりわけ全社目標については会社を人間になぞらえて設定しているという。人間は「心・技術」の充実が大切であり、会社では「心・自ら誇りを持てる組織運営」、「技・自らが買いたくなるものづくり」、「体・5Sを徹底したゼロ災害」とした上で、同社では「Safety First」に重点を置き、その優先順位を

ドなどを掲示しフロア内の情報共有を図っている。

工場においては、将来的なロボット化へのスペース確保のため旧工場で使用していた機械設備の移管は必要最低限に留め、また、障がい者雇用や技術継承などを見据えたレイアウトにも重点を置いている。太陽光発電による自家発電や天窓を取り付け、日中の消費電力を抑えることで、電気を従来から40%削減するなど環境対策も施されている。

現在の製品割合は、製材・木工機械が7割、工作機械が3割で、製品の約3割を中国、インドネシア、ロシアなど世界各国に輸出している。国内では東京・大阪・名古屋・福岡の自社ビルを拠点に営業や顧客サービスを展開し、世界各国にも販売代理店を有する。

### 時代のニーズに応じた製品づくり

「世界初の量産自動車『T型フォード』が登場したのが1908年。それよりも長い社歴の中で、常に木材加工機械製「体技心」としている。これを日々、様々な会議等で唱和することで、方針の実行を徹底し取り返しのつかない事故を予防している。

### ひとを大切に

三重県南部は大都市と比べて教育機関が充実しておらず、人材獲得には特別な創意工夫が必要だという。新卒者を含めて同社の新入社員は全員が正社員であり、この「ひとを大切に」の採用活動が長年貫かれている。給与制度では、2000年度初頭に年功序列賃金体系から職能給制度へ移行した。これにより、女性でも力があれば対等な昇進、昇給の機会が与えられ、現在は役員のほか役職者として多数の女性が活躍している。

また、2017年度より従業員へ同社の株式付与、いわゆる「J-ESOP」を新たに導入し、退職時に、退職金に加えて同社株式を受け取れる仕組みを構築した。「上場企業だからできる新たな時代の福利厚生施策。会社の発展による株価の上

造業界のパイオニアとして時代にマッチした新製品を次々と世の中に送り出してきた」と語るのには6代目社長の菊川厚社長。

長年培った技術は製材・木工機械のみならず工作機械にも存分に発揮されている。自動車・航空宇宙産業をはじめ、鉄道車輜、液晶産業など様々な分野の加工機をオーダーメイドで製造・販売している。

最近では、ICT/IOTを活用し、納入先の機械を複数のカメラで監視、インターネット経由でモニタリングを行い、現地に



丸太から住宅の柱や板材へと加工する無人製材設備

昇を以て、将来の生活設計のプラスとなる制度」と社長は自負する。

### 地域未来牽引企業に選定

同社では、三重大学の学生が、毎年定期的に工場見学に訪れている。また、地元の高校などと連携したインターンシップなども積極的に採り入れている。「製品が消費財でないため、地域へのアナウンスメントが少ないことは否めない。こうした取り組みを通じて、学生や教員の方々に当社を知ってもらっている」という。また、同社の従業員には60歳を超えても継続して就業している従業員がたくさんいる。このように

出向くことなくトラブル対応やプログラム変更などを遠隔操作できるシステムを構築し、省人化、省力化などの顧客ニーズに答えている。

### 歴史に育まれたものづくりの精神と技術

同社のものづくり精神や高い技術力は、伊勢ならではの歴史に育まれた。

伊勢神宮が鎮座する伊勢地域では、式年遷宮を催行する木材加工の長い歴史とそれを支える宮大工の優れた技術や技能が受け継がれている。また、創業の地である大湊町は古くから造船の街として栄えた。1896年には、造船業と鍛冶業に勤しむ職人たちを教育するため、国内最古に近い歴史を持つ職業訓練学校「大湊工業補習学校」（現・伊勢工業高等学校）が設立された。当初から同社は実習工場となり、社長の祖父である菊川武雄氏が校長を務めるなど、地元学生の技術的指導において大きな役割を担ってきた。また、戦前は機械製作におい

安心して働ける雇用の場を提供し、その存在を認識してもらうことが最大の地域貢献であると社長は考えている。

こうした地域密着の取り組みが評価され、2017年に同社は経済産業省から「地域未来牽引企業」(※)に選定された。

### ライフスタイルを豊かに

社長は「入社以来30年間、採用活動を重視してきた。業績が厳しい時期もあったが、2005年から採用を続けた若手スタッフは80名を超えた」と語り、「急速に進みつつあるAIやIoTといった省人化に対応できる技術者に育っている」と胸を張る。

今後について、「木材は、環境に優しい再生可能な貴重な資源である。断熱性能と加工のしやすさは、金属材料にない大きな美点である。業界のパイオニアとして国内外の人々のライフスタイルがより豊かなものとなるよう努力をしていきたい」と語る社長。老舗企業の新たなステージにおける成長が期待される。

文Ⅱ 地域調査部 前田 研人



地域未来牽引企業選定証

(※)地域未来牽引企業  
経済産業省が「地域の特性を生かして高い付加価値を創出し、地域の事業者等に対する経済的波及効果を及ぼすことにより地域の経済成長を力強く牽引する事業を更に積極的に展開されること、または、今後取り組まれることが期待される企業」を選定。